

平成26年9月30日  
新丸山ダム工事事務所  
設楽ダム工事事務所  
浜松河川国道事務所  
三峰川総合開発工事事務所

## 平成26年度における中部地方整備局管内の ダム事業費等監理委員会 開催結果について

ダム建設事業は、調査計画段階から用地補償、生活再建、ダム本体施工を経て管理段階に至るまで、長い期間と多額の事業費を必要とするプロジェクトであり、事業者として、これまでも増して、より一層のコスト縮減、工期遵守に取り組んでいくことが求められています。

このため、平成20年8月5日に事業ごとに「ダム事業費等監理委員会」を設置し、毎年、コスト縮減策やその実施状況、事業の進捗状況、工事工程の進捗状況等について、ご意見を頂いております。

平成26年度についても、委員会を開催し、次のご意見を頂きました。

なお、委員会の説明資料等については、各事業のホームページでご覧頂けます。

### <開催結果>

【新丸山ダム事業費等監理委員会】<http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>

- 経年的に環境影響検討等行われているが、基準を設けることで完了時期を明確にしたほうが良い。
- コスト縮減に対しては、住民の方等のご理解をいただきながら付替道路の幅員縮小等を行っていることは評価でき、今後の道路計画においても同様に努めていただきたい。
- 付替道路でコスト縮減ができたことは良いことだが、歩道を無くしても本当に良いのか。  
(事務局からの説明)
  - ・付替道路供用後も、周辺集落歩行者の道路利用状況は、現状と変わらず現道利用となることから、付替道路の歩行者利用は無いと判断したため、歩道無しの計画とした。

【設楽ダム事業費等監理委員会】

<http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/01menu/18kanshi/kanshi.html>

- 生活再建者の方々への配慮については、県・町と協力して相談等を受ける体制をとっていると確認できたが、生活再建者の方々の生活も考慮し、関係機関と連携して中長期的に実施していくことを考えられたい。
- H26年度の当初予算は、H25年度と比べ下がっているが、なぜ維持作業にかかる費用は増額となっているのか。  
(事務局からの説明)
  - ・地権者の方々からご提供いただいた土地の面積増加に伴い、除草等の維持作業にかかる費用が増額となっている。

【天竜川ダム再編事業費等監理委員会】<http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/>

○置土実験の成果は費用に見合っているのか。また、評価はどうするのか。

(事務局からの説明)

- ・置土実験については、現在、観測によりデータを蓄積しているところである。評価については、今後委員会等に諮るなどして検討していく。

【三峰川総合開発ダム事業費等監理委員会】<http://www.cbr.mlit.go.jp/mibuso/>

○事業の執行にあたっては、全体事業費内で計画的に実施されたい。

○バイパストンネルの下流モニタリング調査の結果は、どのように情報共有しているのか。

(事務局からの説明)

- ・中部地方ダム等管理フォローアップ委員会で報告する他、HP掲載等により情報共有している。

<問合せ先>

国土交通省中部地方整備局新丸山ダム工事事務所

副所長 小池 仁

TEL 0574-43-2780

国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所

副所長 栗木 信之

TEL 0536-23-4331

国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所

副所長 土田 秀樹

TEL 053-466-0111

国土交通省中部地方整備局三峰川総合開発工事事務所

副所長 荒木 秀文

TEL 0265-98-2921

## 天竜川ダム再編事業費等監理委員会 運営要領

### 第1条（総 則）

本要領は、「中部地方整備局ダム事業費等監理委員会設置要領（平成21年4月23日付、国部整河計第11号）」第6条の規定に基づき、天竜川ダム再編事業費等監理委員会（以下、「委員会」という。）の運営に関する必要な事項を定めるものである。

### 第2条（組 織）

1. 委員会は、別紙の委員をもって構成する。
2. 委員長は委員の互選によって選出し、委員会を総括するものとする。
3. 必要に応じ、委員長の指名する委員を追加することができる。

### 第3条（所掌事項）

委員長は、事務所長からの要請を請けて委員会を招集するものとする。委員会は、原則として以下の事項について、確認を行うとともに意見を述べるものとする。なお、これ以外の事項について、事務所長から要請のあった場合には、確認を行うとともに意見を述べるものとする。

- 1) 事業の進捗状況
- 2) 当該年度の予算と事業内容
- 3) 当該年度の目標とスケジュール
- 4) コスト縮減策の具体的な内容

### 第4条（委員の任期）

委員の任期は、原則として委嘱のあった日から5年間とする。なお、5年以内に当該事業が完成した場合は、管理に移行する日までとする。

### 第5条（事務局）

委員会の事務局は、浜松河川国道事務所開発工務課に置くものとする。

### 第6条（委員長への委任）

この要領に定めるもののほか必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるものとする。

### 附 則

この運営要領は、平成21年11月30日から適用する。

平成23年11月1日 一部改定。

平成25年8月28日 一部改定。

平成26年8月26日 一部改定。

## 天竜川ダム再編事業費等監理委員会・名簿 委 員

区 分	専門分野	氏 名	所 属
学識経験者	環境経済システム	おがわ よしき 小川 芳樹	東洋大学経済学部総合政策学科／教授
	公認会計士	たかぎ まさき 高木 正樹	公認会計士高木正樹事務所
	マスコミ	すずき やすひこ 鈴木 泰彦	中日新聞社設楽通信部／編集委員
	交通工学	まつもと ゆきまさ 松本 幸正	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科／教授
	ダム維持管理	まつお なおき 松尾 直規	中部大学工学部都市建設工学科／教授
	コンクリート工学	うちだ ゆういち 内田 裕市	岐阜大学総合情報メディアセンター 高度情報システム開発研究部門／教授
関係機関等		すぎほ としまさ 杉保 聡正	静岡県交通基盤部河川砂防局長
		まえかわ まもる 前川 守	電源開発(株)中部支店長代理

(順不同、敬称略)

### 事務局等

区 分	氏 名	所 属
中部地方整備局	あんどう もとはる 安藤 元治	河川部広域水管理官
	かとう ふみのり 加藤 史訓	浜松河川国道事務所長

# 天竜川ダム再編事業について

平成26年8月26日  
国土交通省 中部地方整備局  
浜松河川国道事務所

1. 事業の概要	1
1) 流域の概要	1
2) 事業の目的及び計画内容	2
3) 事業の経緯	4
4) 事業の進捗状況	5
2. 平成25年度予算	6
1) 実施内容	6
2) 事業実施箇所	7
3) 個別説明	8
(1) 貯水池堆砂対策(置土実験)	8
3. 平成26年度予算	9
1) 実施内容	9
2) 事業実施箇所	10
3) 個別説明	11
(1) 洪水調節(貯水池運用方法の検討)	11
(2) 貯水池堆砂対策(置土実験)	11
(3) 環境(モニタリング調査)	12

# 1. 事業の概要

## 1) 流域の概要

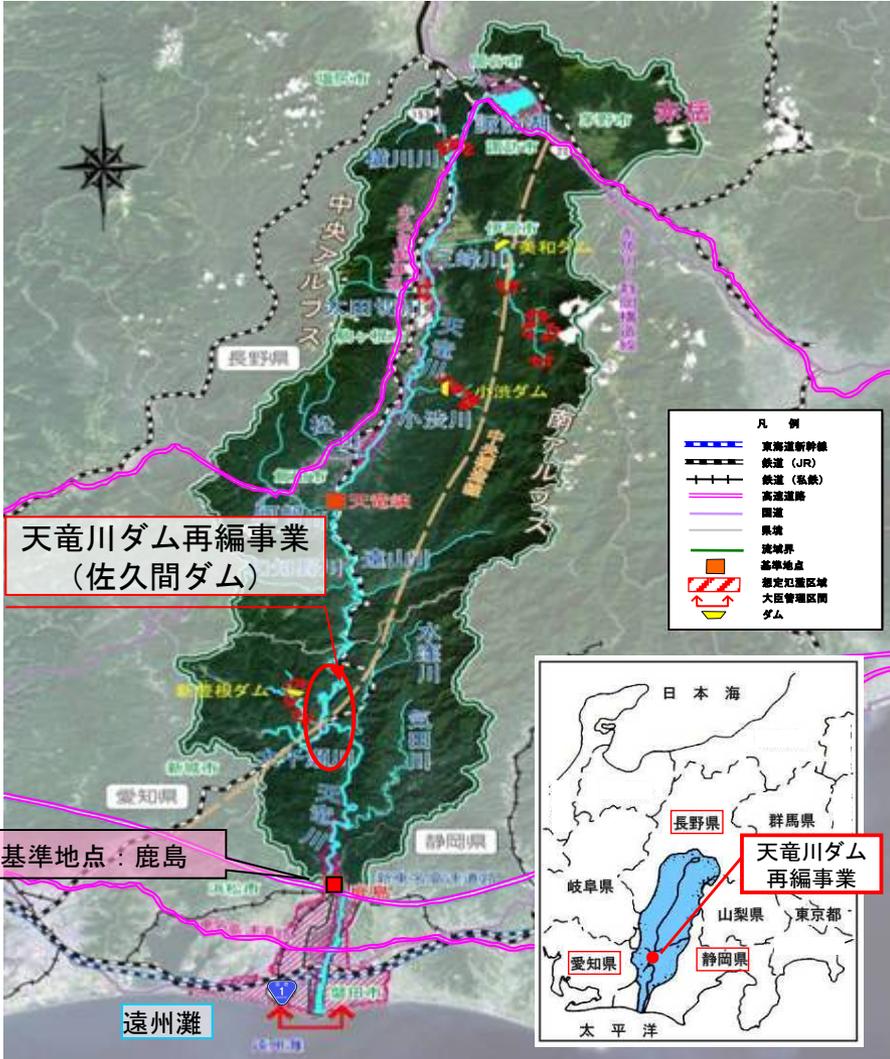
天竜川は、幹川流路延長約213km、流域面積5,090km<sup>2</sup>の我が国で有数の大河川です。流域市町村には、約169万人(10市12町15村)の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の基盤の発展を築いてきました。



天竜川の流域概要

流域面積	5,090km <sup>2</sup>
幹川流路延長	約213km
流域市町村数	10市12町15村
流域市町村人口※	約169万人

※出典：平成22年度国勢調査(総務省)



天竜川流域図

## 2) 事業の目的及び計画内容(1)

### (1) 事業の目的

■ 利水専用の佐久間ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。

### (2) 計画内容

○ 位置(天竜川水系天竜川):(右岸)愛知県北設楽郡豊根村 (左岸)静岡県浜松市天竜区佐久間町

○ 計画内容

<洪水調節>

戦後最大規模相当となる昭和58年9月洪水と同規模の洪水に対して、基準地点鹿島において、約700m<sup>3</sup>/sの流量を低減させる。

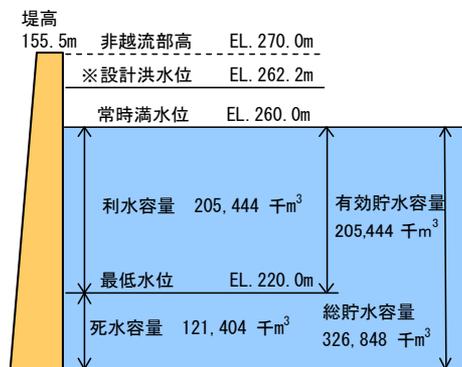
<貯水池堆砂対策>

ダム貯水池に流入する土砂をダム下流へ流下させ、恒久的な洪水調節容量の維持を図るとともに、土砂移動の連続性の確保を図る。

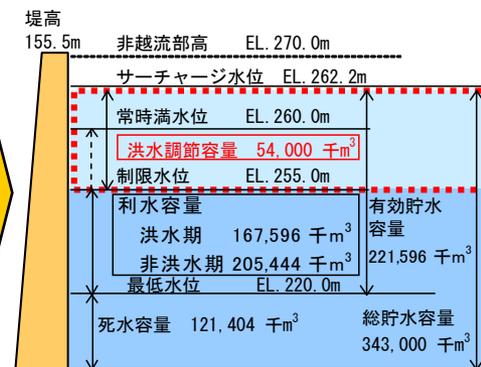
天竜川ダム再編前後のダムの諸元

	佐久間ダム (再編前)	佐久間ダム (再編後)	差分
形式	重力式 コンクリートダム	重力式 コンクリートダム	—
堤高	155.5m	155.5m	—
流域面積	4,157km <sup>2</sup>	4,157km <sup>2</sup>	—
総貯水容量	32,685万m <sup>3</sup>	34,300万m <sup>3</sup>	1,615万m <sup>3</sup> 増
洪水調節容量	0m <sup>3</sup>	5,400万m <sup>3</sup>	5,400万m <sup>3</sup> 増
利水容量※	20,544万m <sup>3</sup>	16,760万m <sup>3</sup>	3,785万m <sup>3</sup> 減

<現在の貯水池容量配分図>



<再編後の貯水池容量配分図>  
(洪水期:6/1~10/10)



※現構造令の名称では、サーチャージ水位に相当

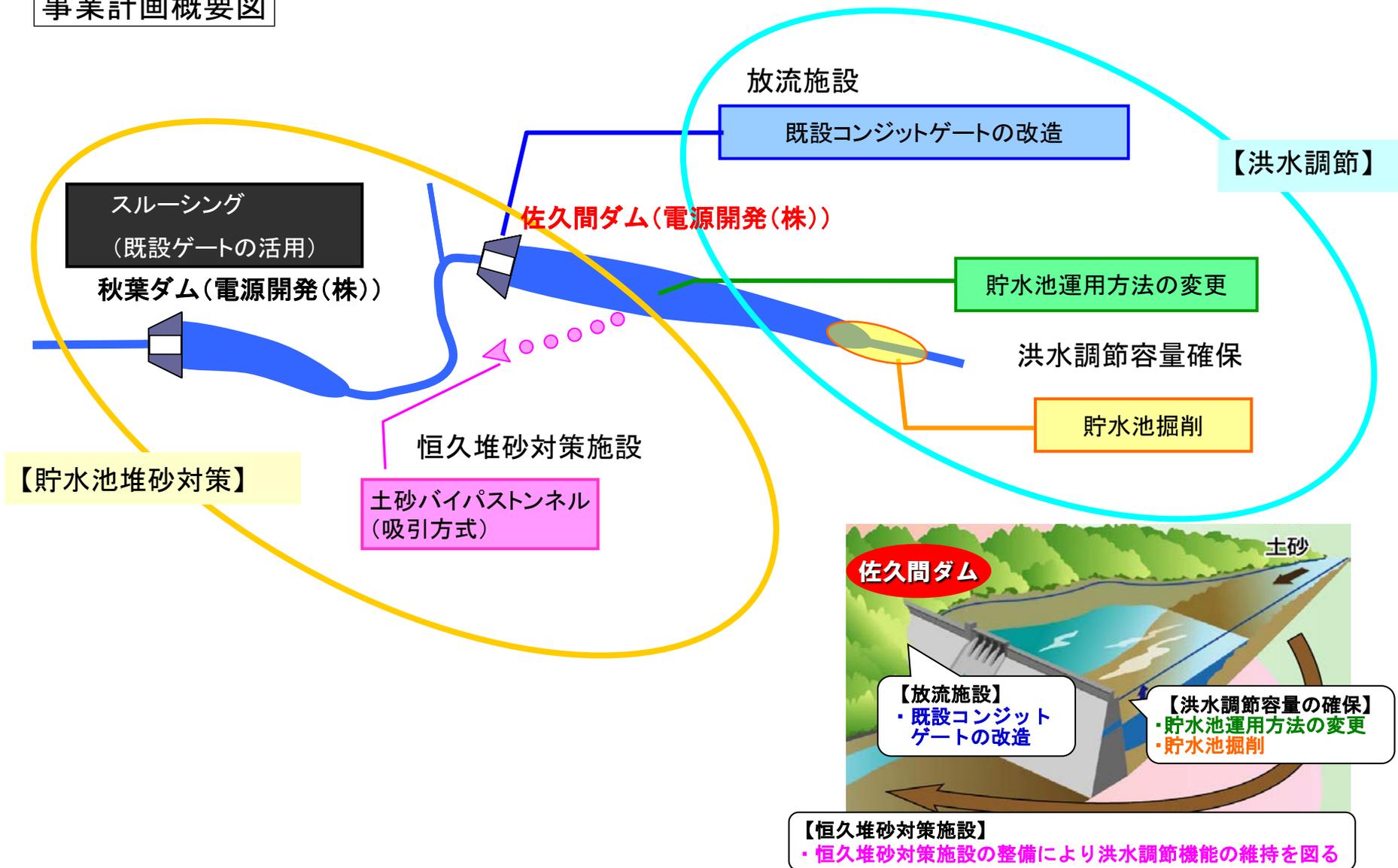
※洪水期の容量を記載

※差分は四捨五入の関係により合わない場合がある

## 2) 事業の目的及び計画内容(2)

### (2) 計画内容

#### 事業計画概要図



天竜川ダム再編事業のイメージ

### 3) 事業の経緯

平成15年	8月	事業評価監視委員会にて審議(新規採択時評価)
平成16年	4月	実施計画調査に着手
平成18年	5月	天竜川ダム再編事業技術工法検討委員会を設立
平成18年	7月	天竜川ダム再編事業環境検討委員会を設立
平成20年	1月	天竜川ダム再編事業技術工法検討委員会とりまとめ
平成20年	3月	天竜川ダム再編事業環境検討委員会とりまとめ
平成20年	7月	天竜川水系河川整備基本方針を策定
平成20年	7月	天竜川ダム再編事業 排砂工法実証実験検討委員会を設立
平成20年	8月	事業評価監視委員会にて審議(新規採択時評価)
平成21年	4月	建設事業に着手
平成21年	7月	天竜川水系河川整備計画を策定
平成21年	8月	事業評価監視委員会への河川整備計画策定を受けての報告 (事業継続)
平成24年	7月	事業評価監視委員会にて審議(事業継続) 対応方針:天竜川の治水安全度の向上のために、新たな洪水調節機能を確保することの重要性に鑑み、効果の早期発現に向け、事業の進め方を含めた段階的な対応について検討するとともに、引き続き恒久堆砂対策施設について検討を進めていくこととする。
平成25年	2月	天竜川ダム再編事業 排砂工法実証実験検討委員会(委員会とりまとめ) これまで蓄積された知見を踏まえ、今後は、砂質土を対象とした吸引工法の適用と、他に考えられる排砂方法も含め比較検討した上で、佐久間ダムの排砂計画を策定する。

# 4) 事業の進捗状況

## ○予算執行状況

- ・H25年度 当初: 6. 21億円
- ・H26年度 4. 87億円
- ・H25年度迄 約93億円 (進捗率約12%)

天竜川ダム再編事業は、平成21年度に建設事業に着手し、吸引方式排砂工法(吸引工法)の実証実験を含む施設計画の検討を実施するとともに、事業効果の早期発現に向け事業の進め方を含めた段階的な対応について検討を進めています。

## ○実施内容

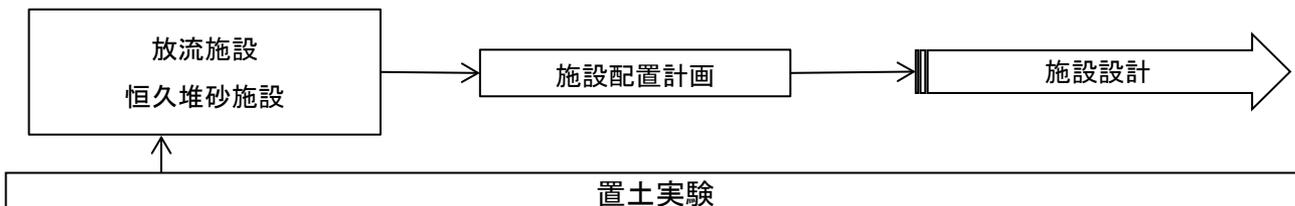
計画内容		実施内容
洪水調節	放流施設	放流施設検討
	洪水調節容量確保	効果早期発現可能な段階的対応の検討
貯水池堆砂対策	恒久堆砂対策施設	排砂工法の検討
		現地実証実験・水理模型実験
		置土実験



現地実証実験

測量及び地質調査: 排砂及び放流施設に関する地質調査等を実施  
 環境調査: 魚類調査、底生動物調査等を実施

## ○実施予定内容



置土実験

# 2. 平成25年度予算

## 1) 実施内容

### ○平成25年度予算額

・当初:2.98億円 ※工事諸費等除く

### ○事業目標

・洪水調節並びに貯水池堆砂対策の効果の早期発現可能な対策及び恒久堆砂対策工法の検討を実施

当初

変更

(百万円) +5.5

(百万円)

工事費(1.0)  
借地料・光熱費等(約1.0)

工事費(6.5)  
佐久間ダム下流進入路工事(約6.1)  
・斜面の崩落が発生したことによる通行困難箇所の対策のための補修。  
借地料・光熱費等(約0.4)

測量設計費(282.2)  
①洪水調節  
暫定対策計画検討(約111.9)  
②貯水池堆砂対策  
暫定対策施設設計(約30.0)  
置土実験(約60.8)  
③環境  
モニタリング調査(約50.0) ▲5.5  
④その他(約29.5)  
諸調査等  
環境調査とりまとめ  
共通経費等

測量設計費(276.7)  
①洪水調節  
暫定対策計画検討(約9.0)  
・前年度の検討により必要とする段階的な対応策の成果が得られたことによる減額  
②貯水池堆砂対策  
暫定対策施設設計(約61.0)  
・恒久堆砂対策工法の検討追加による増額  
置土実験(約145.7)  
・施工単価等の見直しによる増額  
・覆砂観測回数増加による増額  
③環境  
モニタリング調査(約29.6)  
・出水回数の変更に伴う観測回数の変更による減額  
④その他(約31.4)  
諸調査等  
環境調査とりまとめ  
共通経費等  
・数量精査による増額

用地及び補償費(0.0)  
-

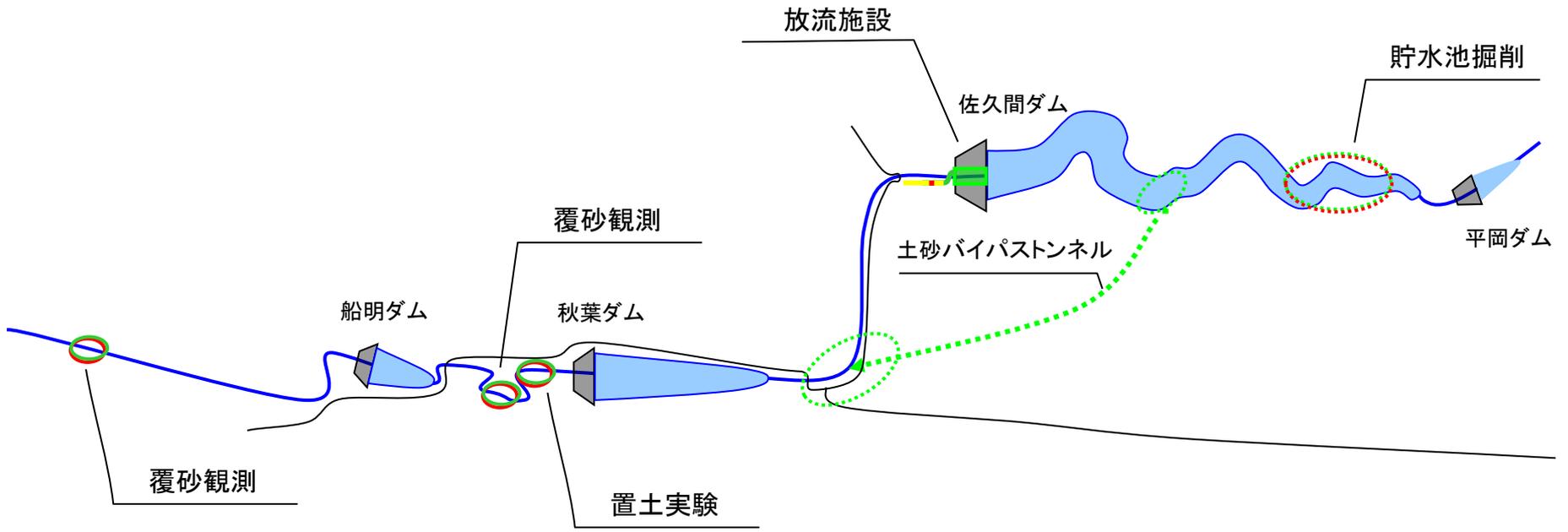
用地及び補償費(0.0) 変更無し

船舶及び機械器具費(15.0)  
電気通信設備維持保守点検等(約15.0)

船舶及び機械器具費(15.0) 変更無し

## 2) 事業実施箇所

凡 例	
H24以前実施箇所	
H25実施箇所	
H26以降	



### 3) 個別説明

#### (1) 貯水池堆砂対策(置土実験)

(約145.7百万円)測量設計費

貯水池堆砂対策で流下する土砂の影響の予測・検討に必要な基礎データを取得するために置土実験を実施

##### 【主な実験内容】

- ・天竜川43.5k付近に置土を実施
- ・置土観測(ビデオ撮影により置土の流出状況を時系列で観測、出水前後の河床材料の変化を観測)
- ・覆砂観測(覆砂を行うことで河床材料を変化させ、生物生息状況を確認し生物の応答関係を観測)



##### ■ 覆砂観測位置



上流候補地点40.0k左岸

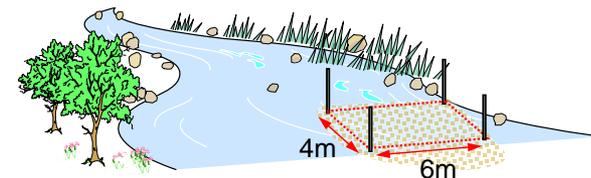


下流候補地点9.0k右岸

##### 置土断面イメージ



##### 河床材料観測イメージ



覆砂観測イメージ

# 3. 平成26年度予算

## 1) 実施内容

### ○平成26年度予算額

・当初:3.81億円 ※工事諸費等除く

### ○事業目標

・洪水調節の貯水池運用方法の検討並びに貯水池堆砂対策としての施設配置の検討を実施

### 当初

(百万円)

#### 工事費(1.0)

①借地料・光熱費等(約1.0)

①借地料・光熱費等  
・佐久間協働センターの借地料・光熱費

#### 測量設計費(370.6)

①洪水調節  
貯水池運用方法の検討(約80.0)  
②貯水池堆砂対策  
堆砂対策施設配置の検討(約60.0)  
置土実験(約134.0)  
③環境  
モニタリング調査(約50.0)  
④その他(約46.6)  
・環境調査とりまとめ  
・共通経費等

①洪水調節  
・恒久的な貯水池運用方法の検討を実施  
②貯水池堆砂対策  
・恒久堆砂対策施設配置の検討を実施  
・置土実験(置土観測、覆砂観測)を実施  
③環境  
・排砂による下流河川への環境影響モニタリング調査を実施  
④その他  
・環境調査とりまとめの実施  
・共通経費等

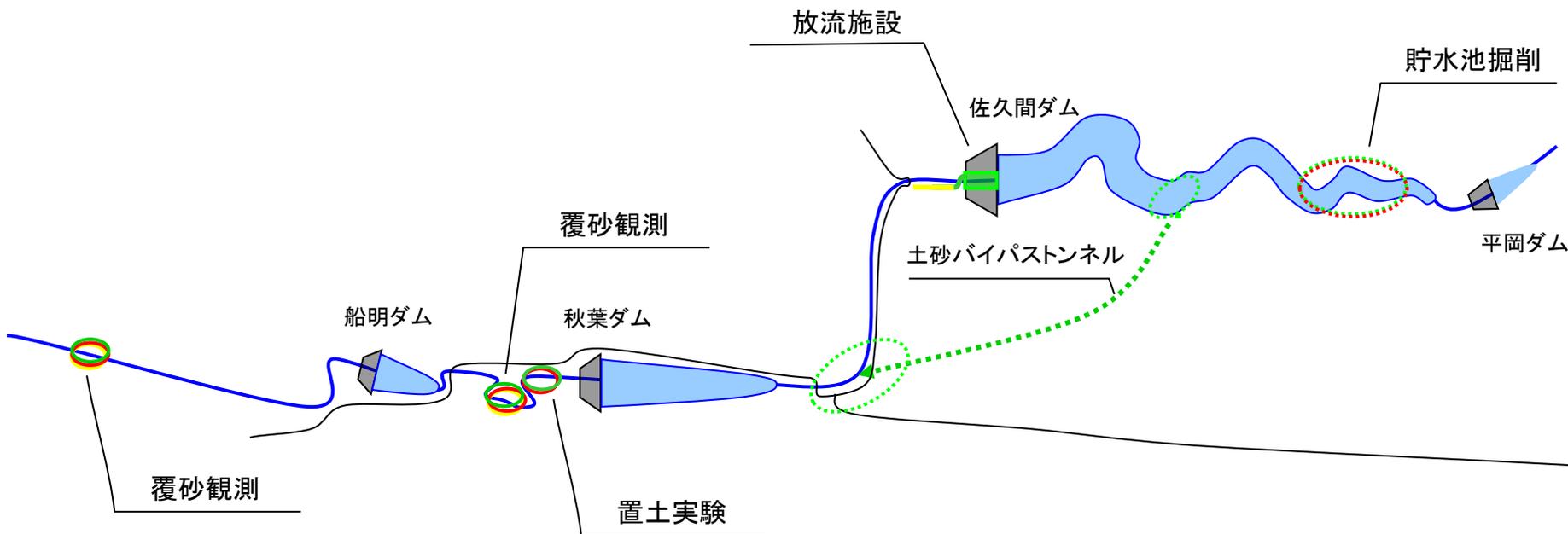
#### 船舶及び機械器具費(8.9)

①電気通信設備維持保守点検等(約8.9)

①電気通信設備維持保守点検等  
・電気通信施設保守点検を実施

## 2) 事業実施箇所

凡 例	
H25以前実施箇所	
H26実施箇所	
H27以降	



※置土地点については、今後の事業展開により変更することがあります。

# 3) 個別説明

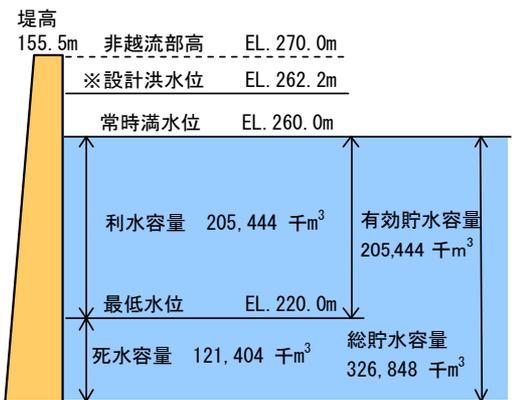
## (1) 洪水調節(貯水池運用方法の検討)

(約80.0百万円) 測量設計費

### ○検討目的の概要

天竜川の治水安全度向上にむけ、新たな洪水調節機能を確保するための恒久的な貯水池運用方法の検討を実施

〈現在の貯水池容量配分図〉



※現構造令の名称では、サーチャージ水位に相当

〈再編後の貯水池容量配分図〉

(洪水期:6/1~10/10)



## (2) 貯水池堆砂対策(置土実験)

(約134.0百万円)測量設計費

### ○検討目的の概要

貯水池堆砂対策で流下する土砂の影響の予測・検討に必要な基礎データを取得するために置土実験(置土観測・覆砂観測)を継続して実施



# 3) 個別説明



## (3) 環境(モニタリング調査)

(約50百万円) 測量設計費

### ○調査目的の概要

天竜川ダム再編事業環境検討委員会で提言された事業実施前後の変化を継続的に捉えることを目的に、ダム貯水池及び天竜川下流域の生物環境への影響の検討に必要な基礎データを取得するため、魚類や底生動物等の生息状況調査を実施

### ○調査実施状況

- 魚類調査: 下流河川
- 底生動物調査: 下流河川
- アユの繁殖・生息状況調査: 下流河川
- 洪水時魚類分布調査: 下流河川
- 河口域稚仔魚調査: 河口域



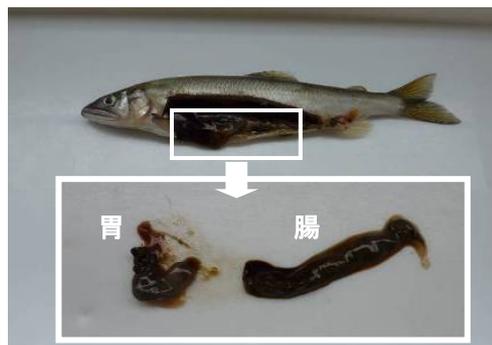
魚類調査



底生動物調査



アユの流下仔魚調査



アユの消化管内容物調査



アユの産着卵



河口域稚仔魚調査